

草むしりを天職に生きる

宮本成人

私が群馬県高崎市に株式会社草むしりを立ち上げたのは二〇〇九年、四十四歳の時でした。当時、周りからは「いまさら独立?」「なんで草むしり?」「そんなことで生計が成り立つのか?」と反対されました。ノウハウも人脈もないゼロからのスタート。それでも私が起業した理由はただ一つ。

何をしたらいいのかわからない、本当にやりたい仕事が見つからない……。そういう方々に草むしりという一見なんでもないようなことでも職業としてやっていけるといふことを伝えた。その一念でした。

かくいう私自身、これまでに八回も転職を繰り返して、

二十年以上悶々とした辛い時期を過ごしてきました。

大学卒業後、地元の大企業に就職したものの、没個性に陥ってしまうことが耐えられず二年で退職。その後、大学時代に日本拳法で全国一位になった経験から、日本拳法協会海外指導普及員として二年間カナダに勤務。帰国後は知人の紹介で、長野オリンピックの招致の仕事にも携わりました。

そして二十六歳の時、ケンタッキーフライドチキンのFCに入社。そこで接客のいろはを一から叩き込まれ、数年後には店舗のマネジメントを任されるようになりまでなりました。そんな私に転機が訪れたのは三十七歳の時。

ケンタッキーが一年間で最も忙しいのは十二月二十三日二十五日のクリスマス期間。その三日間の売り上

げで、全国約一千あるケンタッキーの店舗のうち、私の店舗が日本一を成し遂げたのです。その後もいくつかの店舗で好成绩を叩き出した私は独立しようと思いつき立ち、その年の三月にケンタッキーを退職。貯金を叩いてフランチャイズの加盟金を支払い、店舗立ち上げに向けて勇んでいました。

ところが、です。物件探しに不動産屋さんを回っても、肩書きも何もない無職のド素人に何ができるんだ、と白い眼で見られ全然相手にしてもらえない。周りから「どうするんだ」と急ぎ立てられ、挙句の果てには何もせずにギブアップしてしまっただけです。

売り上げ日本一になれたのは自分の力ではない。ケンタッキーというブランドや周りの社員やアルバイトさんが支えてくれたからに

他ならない。伸び切っていた天狗の鼻をへし折られた瞬間でした。人と話すことも儘ならず、呼吸をするのがやっとの状態。半年ほど引きこもり生活が続ぎ、ようやく働き始めたものの、またしても職を転々とする日々。そんな時、友人から突然電話がかかってきました。「宮本、ちよつとアルバイトしない?」。それは植木屋さんでのアルバイトでした。最初は全く乗り気ではなかったのですが、親方の言われるがままに作業をしていると、庭は綺麗になる、お客様からは喜んで感謝していただける、自分は汗をかいて清々しい。これこそ自分にとっての天職だ!と感動が込み上げてきました。

「じゃあ、草むしりを仕事にしてみたら」。友人のこの言葉に触発され、起業を決

意。八回もの転職を繰り返した果てによく掴んだ天職――。

しかし、見込みのない収入、増える負債、孤独な毎日……。起業はまさに自分との闘いでした。何をしたらいいのか分からず、まず自宅のプリンターでチラシをつくり、周辺の個人宅を中心にポスティングしていく。

私に起業を勧めてくれた友人と月二回、朝五時からミーティングを行い、何月何日にどの町で何枚チラシを配って、どれだけの依頼があったのかを記録していきました。当時は、一週間のうちに一件依頼があれば上出来でした。どうにか変われるきっかけが欲しいと思い、鍵山秀三郎先生の「掃除に学ぶ会」に参加したり、いろいろな勉強会にも参加しましたが、一向に

状況は変わりませんでした。

それからしばらく経ったある日のこと。いつものようにパソコンで集計をしていると、五十枚チラシを配ると一件受注があるということに気づいたのです。

先の見えない不安に押し潰されそうになっていた私に小さな希望の光が射した瞬間でした。それまではモチベーションが上がらず、二十枚や三十枚しか配っていない日もありましたが、とにかく数を増やせばいい。「努力をした分だけ結果がついてくる」。そのことだけを信じ、とにかく行動あるのみと、朝から晩まで靴のかかとがすり減るくらい配り続けました。こうして一年目で目標としていた受注数百件を達成。徐々にお客様を増やしていき、現在では従業員六人、顧客登録数も五百件を上回るまでにな

りました。

私はこれまで幾度となく失敗を繰り返してきました。それでも決して心が折れなかつたのは、二つの言葉が私を支えてくれたからだと思っています。

一つは「なんでもないよなことをコツコツ続けていくことで道は拓けてくる」という鍵山先生の言葉。もう一つはあるテレビ番組を見ていた時に靴職人の山口千尋さんがおっしゃっていた「挑み続ける者だけが頂に立つ」という言葉です。いま振り返ると、どんなに辛くても足を止めることなく、地道に歩み続けてきたからこそ、あの時神様が「五十件に一件の受注がある」と気づかせてくださったのではないかと感じずにはいられません。

どんなに失敗や挫折を経験したとしても、挑戦し続

けることで誰しもが天職を見つけることができる。それを一人でも多くの若者に伝えるべく、私はこれからも挑み続けていきます。
(みやもと・しげと ㈱草むしり社長)